特集：読書の楽しみ 本を読む喜び

高田 宏

2

特集：読書の楽しみ 一人一人の読みを大事にする「読書技術」と評価

佐藤洋一

6

特集：読書の楽しみ 読書の意義が実感される読書指導

中学生の読書を
考える会

10

連載対談 言葉選びは心を探すこと

渡辺 実
佐々木瑞枝

12

連載：文法楽^⑩ 「結果」の文法

森山卓郎

18

連載：これから必要な言葉の力とは何か^⑪よりよく生きるための言葉
言葉の力中村桂子
宮地 裕

21 20

連載：書写がめざすもの^⑫ 「書写」「と」「習字」とはどこが違う？

宮澤正明

22

お知らせ・広報課便り

24

漢字

好き嫌いのある文字

阿辻 哲次

漢字は人によって好き嫌いがあるようだ。学生諸君と漢字について話していてよく耳にするのは、小学校の時に四角いマス目のノートに漢字を練習させられた思い出で、中にはいたずらに対する罰として、難しい漢字ばかりを五百字書かされ、それ以来漢字が嫌いになったという者もいた。彼はすでに「一児の父親となっているが、子供の名前はどちらもひらがなで表記するようになっている。

一方漢字が好きでたまらないという方も珍しくなく、かつて私は、漢和辞典を読破するのが好きで、すでに五冊読み、現在六冊目に取りかかっているという、驚くべき趣味をお持ちの方から手紙をいただいた経験がある。

漢字が好きだろうが嫌いだろうが、それはまったく個人の自由である。しかし漢字以外の文字も同じように好き嫌いの対象となるだろうか。アメリカ人の中にも、アルファベットが大好きだとか、AやBを見るのがいやでたまらない、という人がいるだろうか。また漢字には好き嫌いをいう日本人でも、ひらがなやカタカナについて、好き嫌いをいうことはめったにないだろう。

漢字が好き嫌いの対象となるというのは、実はそれが文字として非常に便利なものであることの裏返しである、と私は考える。漢字はアルファベットやカナより格段に難しいから、習得するまでに多くの努力を払わなければならない。そこで挫折すれば嫌いになるが、しかしいったんマスターすればこんなに便利な文字はほかになく、ますます好きになる、というわけなのだろう。

阿辻哲次（あつじてつじ）京都大学総合人間学部教授。専門は漢字を中心とした中国文字文化史。主な著書に「図説漢字の歴史」（大修館書店）、「漢字の社会史 東洋文明を支えた文字の三千年」（PHP研究所）、「漢字道楽」（講談社）などがある。